

県民意識調査に係る統計的分析について

○実感が低下した分野

実感が低下した分野別実感	【県民意識調査】属性分析 (実感が低下した属性)		属性分析から得られた結果	補足調査結果からの推測 (実感が低下した人の上位 3 位の回答)	まとめ
余暇の充実	性別	男性、女性	年代別では 70 歳以上、職業別では 60 歳以上の無職、世帯構成別では夫婦のみ世帯、広域振興圏別では沿岸広域振興圏において低下幅が大きい傾向にある。	分野別実感において、実感が低下した要因として回答が多かったものは以下のとおり。 ① 自由な時間の確保 ② 知人・友人との交流 ③ 趣味・娯楽活動の場所・機会 また、他の実感変動と比較すると、以下の回答割合が高い傾向にある。 ・ 運動や行動の制限の有無	左記の結果より、実感が低下した要因は、以下のとおり推測される。 ① 自由な時間が十分に確保できなかったこと (例：仕事、親の介護、家事 等) ② 知人・友人との交流が減ったこと (例：コロナの影響、仕事で予定が合わない 等) ③ 趣味・娯楽活動の場所・機会が減ったこと (例：コロナの影響、時間・お金に余裕がない 等)
	年代	70 歳以上			
	職業	60 歳以上の無職			
	世帯構成	夫婦のみ世帯			
	子どもの数	2 人、3 人			
	居住年数	20 年以上			
	広域圏	県央、沿岸			
地域社会とのつながり	性別	男性、女性	実感が有意に低下している属性については、全体的に低下幅が大きい傾向にあり、特に沿岸広域振興圏の低下幅が大きい状況にある。	分野別実感において、実感が低下した要因として回答が多かったものは以下のとおり。 ① 隣近所との面識・交流 ② 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) ③ 地域の行事への参加(お祭り、スポーツ大会など) また、他の実感変動との比較も行ったが、高い傾向が見られる要因はみられなかった。	左記の結果より、実感が低下した要因は、以下のとおり推測される。 ① 隣近所との面識・交流が減ったこと (例：子どもの成長に伴う交流機会の減少、コロナの影響、交流したくない 等) ② 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)への参加が減ったこと (例：コロナの影響で行事が中止 等) ③ 地域の行事への参加(お祭り、スポーツ大会など)への参加が減ったこと (例：コロナの影響でイベント等が中止 等)
	年代	30～39 歳、40～49 歳、50～59 歳、60～69 歳、70 歳以上			
	職業	会社役員・団体役員、常用雇用者、臨時雇用者、専業主婦・主夫、60 歳以上の無職			
	世帯構成	全区分(ひとり暮らし、夫婦のみ、2 世代世帯、3 世代世帯、その他)			
	子どもの数	1 人、2 人、3 人、子どもはいない			
	居住年数	20 年以上			
	広域圏	全区分(県央、県南、沿岸、県北)			
地域の安全	性別	男性、女性	年代別では 60 代、職業別では自営業主及び会社役員・団体役員、広域振興圏別では沿岸広域振興圏において低下幅が大きい傾向にある。	分野別実感において、実感が低下した要因として回答が多かったものは以下のとおり。 ① 自然災害の発生状況 ② 犯罪の発生状況 ③ 地域の防犯体制(防犯パトロール、街頭防犯カメラ) また、他の実感変動と比較すると、以下の回答割合が高い傾向にある。 ・ 社会インフラの老朽化(橋、下水道など)	左記の結果より、実感が低下した要因は、以下のとおり推測される。 ① 自然災害の発生が多く、被害も大きくなっていること (例：大雨が増えた気がして不安 等) ② 犯罪の発生状況に不安があること (例：犯罪被害にあったこと、不審者情報 等) ③ 地域の防犯体制(防犯パトロール、街頭防犯カメラ)が十分とは言えないこと (例：夜間が怖いと感じる、交通違反や不法投棄 等)
	年代	50～59 歳、60～69 歳、70 歳以上			
	職業	自営業主、会社役員・団体役員、常用雇用者、60 歳以上の無職			
	世帯構成	夫婦のみ、2 世代世帯、その他			
	子どもの数	1 人、2 人			
	居住年数	20 年以上			
	広域圏	県央、沿岸			

実感が低下した分野別実感	【県民意識調査】属性分析 (実感が低下した属性)		属性分析から得られた結果	補足調査結果からの推測 (実感が低下した人の上位3位の回答)	まとめ
仕事のやりがい	性別	男性、女性	年代別では70歳以上、職業別では会社役員・団体役員、広域振興圏別では沿岸広域振興圏において低下幅が大きい傾向にある。	分野別実感において、実感が低下した要因として回答が多かったものは以下のとおり。 ① 現在の収入・給料の額 ② 現在の職種・業務の内容 ③ 将来の収入・給料の額の見込み また、他の実感変動と比較すると、以下の要因が高い傾向にある。 ・ 現在の収入・給料の額 ・ 将来の収入・給料の額の見込み	左記の結果より、実感が低下した要因は、以下のとおり推測される。 ① 現在の収入・給料の額が十分とは言えないこと (例：低収入、物価高でも給料が上がらない 等) ② 現在の職種・業務の内容に不満があること (例：ハードワーク、米価が安く肥料代が高い 等) ③ 将来の収入・給料の額の見込みに不安があること (例：体調不良、低収入 等)
	年代	70歳以上			
	職業	会社役員・団体役員			
	世帯構成	2世代世帯、3世代世帯			
	子どもの数	1人、2人、3人			
	居住年数	20年以上			
	広域圏	沿岸、県北			
必要な収入や所得	性別	男性	年代別では20代及び70歳以上、職業別では自営業主、子どもの数では1人、広域振興圏別では沿岸広域振興圏において低下幅が大きい傾向にある。	分野別実感において、実感が低下した要因として回答が多かったものは以下のとおり。 ① 自分の収入・所得額(年金を含む) ② 家族の収入・所得額(年金を含む) ③ 家族の支出額 また、他の実感変動と比較すると、以下の要因が高い傾向にある。 ・ 家族の支出額	左記の結果より、実感が低下した要因は、以下のとおり推測される。 ① 自分の収入・所得額(年金を含む)が十分とは言えないこと (例：年金だけでは生活が不安、物価の高騰 等) ② 家族の収入・所得額(年金を含む)が十分とは言えないこと (例：年金額の低下、妻の所得の低下 等) ③ 家族の支出額が多い、又は十分な支出ができないこと (例：生活必要経費の支出の増 等)
	年代	20～29歳、70歳以上			
	職業	自営業主、常用雇用者			
	世帯構成	夫婦のみ、2世代世帯、3世代世帯			
	子どもの数	1人、子どもはいない			
	居住年数	20年以上			
	広域圏	沿岸			
歴史・文化への誇り	性別	女性	年代別では70歳以上、広域振興圏別では沿岸広域振興圏において低下幅がやや大きい傾向にある。	分野別実感において、実感が低下した要因として回答が多かったものは以下のとおり。 ① 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない ② その地域で過ごした年数 ③ 地域の歴史や文化に関心がない このほか、他の実感変動と比較すると、以下の要因が高い傾向にある。 ・ 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない ・ 地域の歴史や文化に関心がない	左記の結果より、実感が低下した要因は、以下のとおり推測される。 ① 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない (例:そもそもそれらを大事にしようとする気持ちが人々にはない、過疎化が進むこの時代に誰が維持したり、学ぼうとするのか 等) ② その地域で過ごした年数が長いこと (例:地元ではない、特に誇りに感じる場所がない 等) ③ 地域の歴史や文化に関心がない (例:これといった魅力がない、自発的に調べていないので分からない 等)
	年代	70歳以上			
	職業	60歳以上の無職			
	世帯構成	—			
	子どもの数	2人			
	居住年数	20年以上			
	広域圏	沿岸			

○実感が上昇した分野

意識が上昇した 分野別実感	【県民意識調査】属性分析 (実感が上昇した属性)		属性分析から得られた結果	補足調査結果からの推測 (実感が上昇した人の上位3位の回答)	まとめ
心身の健康	性別	男性、女性	年代別では30～50代、職業別では常用雇用者及び60歳以上の無職、世帯構成別ではその他世帯、子ども数別では1人、3人、4人以上及び子どもはいない、広域振興圏別では県南広域振興圏において上昇幅が大きい傾向にある。	分野別実感において、実感が上昇した要因として回答が多かったものは以下のとおり。 【からだ】 ① 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分（ワークライフバランス） ② 健康診断の結果 ③ 食事の制限の有無 また、他の実感変動と比較すると、以下の要因が高い傾向にある。 ・ 食事の制限の有無 【こころ】 ① 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分（ワークライフバランス） ② 充実した余暇の有無（仕事・学業以外の趣味など） ③ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無 ④ 相談相手の有無 ⑤ からだの健康状態 また、他の実感変動と比較すると、以下の要因が高い傾向にある。 ・ 充実した余暇の有無（仕事・学業以外の趣味など） ・ 相談相手の有無	左記の結果より、実感が上昇した要因は、以下のとおり推測される。 【からだ】 ① 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと（例：規則正しい生活 等） ② 健康診断の結果が良かったこと（例：毎年、健康診断を受けていて結果が良い 等） ③ 食事の制限がないこと（例：好きなものを食べられる 等） 【こころ】 ① 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと（例：規則正しい生活、睡眠・仕事とも充実 等） ② 充実した余暇（仕事・学業以外の趣味など）があること（例：地域の伝統芸能で活動 等） ③ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスが少ないこと（例：子供達が社会で自立・活躍 等） ④ 相談相手がいること（例：家族、連れ添い 等） ⑤ からだの健康状態が良かったこと（例：健康状態が良好 等）
	年代	30～39歳、40～49歳、50～59歳、60～69歳			
	職業	常用雇用者、60歳以上の無職			
	世帯構成	2世代世帯、3世代世帯、その他			
	子どもの数	1人、3人、4人以上、子どもはいない			
	居住年数	20年以上			
	広域圏	県央、県南			
家族関係	性別	—	職業別では会社役員・団体役員において上昇幅が大きい傾向にある。	分野別実感において、実感が上昇した要因として回答が多かったものは以下のとおり。 ① 会話の頻度（多い・少ない） ② 同居の有無 ③ 困った時に助け合えるかどうか このほか、他の実感変動と比較すると、以下の要因が高い傾向にある。 ・ 同居の有無 ・ 一緒にいる時間 ・ 家事分担のバランス ・ ペットの存在 ・ 困ったときに助け合えるかどうか	左記の結果より、実感が上昇した要因は、以下のとおり推測される。 ① 会話の頻度が多いこと（例：会話が深い、会話・だんらんが楽しい 等） ② 同居（あるいは別居）がうまくいっていること（例：同居家族に相談できる 等） ③ 困ったときに助け合えていること（例：別居している子供が面倒をみってくれる 等）
	年代	40～49歳、50～59歳			
	職業	会社役員・団体役員、常用雇用者			
	世帯構成	—			
	子どもの数	—			
	居住年数	—			
	広域圏	県南			

○一貫して高値で推移

分野別実感	属性		補足調査結果からの推測 (令和5年調査における上位3位の回答)	補足調査結果からの推測 (過去2回以上要因となったもの)	まとめ
家族関係	世帯構成	夫婦のみ	実感が高い要因として回答が多かったものは以下のとおり。 ① 会話の頻度（多い） ② 同居の有無 ③ 困ったときに助け合えるかどうか	実感が高い要因として、過去2回以上推測されたものは以下のとおり。 ① 会話の頻度が多いこと ② 同居（あるいは別居）がうまくいっていること ③ 困った時に助け合えていること ④ 家族がよい精神的影響（貢献）を自分にもたらしめていること	左記の結果より、当該属性において、実感が高い要因は以下のとおり推測される。 ① 会話の頻度が多いこと ② 同居（あるいは別居）がうまくいっていること ③ 困った時に助け合えていること
自然のゆたかさ	すべての属性		当該分野はすべての属性において一貫して高値で推移しているため、補足調査結果から、分野の実感が高い要因として回答が多かったものを見ると、以下のとおり。 ① 緑の量（多い） ② 空気の状態（綺麗） ③ 水（河川、池、地下水など）の状態（綺麗）	過去2回以上実感が高い要因として推測されたものは以下のとおり。 ① 緑の量が豊かであること ② 空気の状態が綺麗であること ③ 水（河川、池、地下水など）の状態が綺麗であること	左記の結果より、当該分野における全ての属性において、実感が高い要因は以下のとおり推測される。 ① 緑の量が豊かであること ② 空気の状態が綺麗であること ③ 水（河川、池、地下水など）の状態が綺麗であること

(参考) 一貫して高値で推移している要因（経年）

	R2	R3	R4
家族関係（夫婦のみ）	ア 会話の頻度が多いこと イ 困った時に助け合えていること ウ 家族がよい精神的影響（貢献）を自分にもたらしめていること	ア 会話の頻度が多いこと イ 同居（あるいは別居）がうまくいっていること ウ 家族がよい精神的影響（貢献）を自分にもたらしめていること	ア 会話の頻度が多いこと イ 困った時に助け合えていること ウ 同居（あるいは別居）がうまくいっていること
自然のゆたかさ（分野）	ア 緑の量が豊かであること イ 空気の状態が綺麗であること ウ 水（河川、池、地下水など）の状態が綺麗であること	ア 緑の量が豊かであること イ 空気の状態が綺麗であること ウ 水（河川、池、地下水など）の状態が綺麗であること	ア 緑の量が豊かであること イ 空気の状態が綺麗であること ウ 水（河川、池、地下水など）の状態が綺麗であること

○一貫して低値で推移

分野別実感	属性		補足調査結果からの推測 (令和5年調査における上位3位の回答)	補足調査結果からの推測 (過去2回以上要因となったもの)	まとめ
余暇の充実	年代	40～49 歳、50～59 歳、 60～69 歳	当該分野の一貫して低値で推移している属性において、補足調査結果から、実感が低い要因として回答が多かったものは全属性でほぼ同じであり、以下のとおり。 ① 自由な時間の確保 ② 趣味・娯楽活動の場所・機会 ③ 知人・友人との交流 ④ 運動や行動の制限の有無（50 代）	一貫して低値である属性において、補足調査結果から、過去2回以上実感が低い要因として推測されたものは以下のとおり。 ① 自由な時間が十分に確保できなかったこと ② 趣味・娯楽活動の場所・機会が少ないこと ③ 知人・友人との交流が少ないこと	左記の結果より、当該分野における一貫して低値で推移している属性において、実感が低い要因は以下のとおり推測される。 ① 自由な時間が十分に確保できなかったこと ② 趣味・娯楽活動の場所・機会が少ないこと ③ 知人・友人との交流が少ないこと ④ 運動や行動の制限があること
	職業	常用雇用者			
	世帯構成	2 世代世帯			
	子の数	子どもはいない			
	広域圏	県南、県北			
子育て	子どもの数	子どもはいない	実感が低い要因として回答が多かったものは以下のとおり。 ① 子どもの教育にかかる費用 ② 子育てにかかる費用 ③ 子育て支援サービスの内容 ④ 自分の就業状況（労働時間、休業・休暇など） ⑤ 子どもに関する医療機関（小児科など）の充実 ⑥ 子どもの遊び場（公園など）の充実 ⑦ わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）	実感が低い要因として、過去2回以上推測されたものは以下のとおり。 ① わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど） ② 子どもの教育にかかる費用が高いこと ③ 子育てにかかる費用が高いこと ④ 自分の就業状況（労働時間、休養・休暇など）に不満があること	左記の結果より、当該属性において、実感が低い要因は以下のとおり推測される。 ① 子どもの教育にかかる費用 ② 子育てにかかる費用 ③ 子育て支援サービスの内容 ④ 自分の就業状況（労働時間、休業・休暇など） ⑤ 子どもに関する医療機関（小児科など）の充実 ⑥ 子どもの遊び場（公園など）の充実 ⑦ わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）
子どもの教育	子どもの数	子どもはいない	分野別実感において、実感が低下した要因として回答が多かったものは以下のとおり。 ① 人間性、社会性を育むための教育内容 ② 不登校やいじめなどの対応 ③ 学力を育む教育内容 ④ 健やかな体を育む教育内容（体育、部活動の内容など）	実感が低い要因として、過去2回以上推測されたものは以下のとおり。 ① 学力を育む教育内容が十分とは言えないこと ② 人間性、社会性を育むための教育内容が十分とは言えないこと ③ 不登校やいじめなどの対応が十分とは言えないこと ④ わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）	左記の結果より、当該属性において、実感が低い要因は以下のとおり推測される。 ① 人間性、社会性を育むための教育内容が十分とは言えないこと ② 不登校やいじめなどの対応が十分とは言えないこと ③ 学力を育む教育内容が十分とは言えないこと ④ 健やかな体を育む教育内容（体育、部活動の内容など）が十分とは言えないこと
地域社会とのつながり	年代	20～29 歳	分野別実感において、実感が低下した要因として回答が多かったものは以下のとおり。 ① 自治会・町内会活動（環境美化、防犯・防災活動など） ② 隣近所との面識・交流 ③ 地域の行事への参加（お祭り、スポーツ大会など）	実感が低い要因として、過去2回以上推測されたものは以下のとおり。 ① その地域で過ごした年数が影響していること ② 隣近所との面識・交流が少ないこと ③ 自治会・町内会活動（環境美化、防犯・防災活動など）への参加が少ないこと	左記の結果より、当該属性において、実感が低い要因は以下のとおり推測される。 ① 自治会・町内会活動（環境美化、防犯・防災活動など）への参加が少ないこと ② 隣近所との面識・交流が少ないこと ③ 地域の行事への参加（お祭り、スポーツ大会など）への参加が少ないこと

必要な収入 や所得	会社役員・団体役員、居住年数 10～ 20 年未満を除くすべての属性	当該分野はほとんどすべての属性において一貫して低値で推移しているため、補足調査結果から、分野の実感が高い要因として回答が多かったものを見ると、以下のとおり。 ① 自分の収入・所得額（年金を含む） ② 家族の収入・所得額（年金を含む） ③ 自分の支出額	過去 2 回以上実感が低い要因として推測されたものは以下のとおり。 ① 自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと ② 家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと ③ 自分の金融資産の額が十分とは言えないこと	左記の結果より、当該分野における一貫して低値で推移している属性において、実感が低い要因は以下のとおり推測される。 ① 自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと ② 家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと ③ 自分の金融資産の額が十分とは言えないこと
--------------	---------------------------------------	--	---	--

（参考）一貫して低値で推移している要因（経年）

分野（属性）	R2	R3	R4
余暇の充実 （40代、50代、60代、常用雇用者、 2 世代世帯、子どもはいない、県南 広域振興圏、県北広域振興圏）	ア 自由な時間が十分に確保できなかったこと イ 知人・友人との交流が少ないこと ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会が少ないこと	ア 自由な時間が十分に確保できなかったこと イ 趣味・娯楽活動の場所・機会が少ないこと ウ 知人・友人との交流が少ないこと	ア 自由な時間が十分に確保できなかったこと イ 趣味・娯楽活動の場所・機会が少ないこと ウ 知人・友人との交流が少ないこと
子育て（子どもはいない）	ア わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど） イ 子どもの教育にかかる費用が高いこと ウ 子育てにかかる費用が高いこと エ 自分の就業状況（労働時間、休養・休暇など）に不満があること	ア 子育てにかかる費用が高いこと イ 子育て支援サービスの内容が十分とは言えないこと ウ わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）	ア わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど） イ 子どもの教育にかかる費用が高いこと ウ 子育てにかかる費用が高いこと エ 自分の就業状況（労働時間、休養・休暇など）に不満があること
子どもの教育（子どもはいない）	ア 学力を育む教育内容が十分とは言えないこと イ 人間性、社会性を育むための教育内容が十分とは言えないこと ウ 不登校やいじめなどの対応が十分とは言えないこと エ わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）	ア 人間性、社会性を育むための教育内容が十分とは言えないこと イ 学力を育む教育内容が十分とは言えないこと ウ 不登校やいじめなどの対応が十分とは言えないこと エ わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）	ア 人間性、社会性を育むための教育内容が十分とは言えないこと イ わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど） ウ 学力を育む教育内容が十分とは言えないこと エ 不登校やいじめなどへの対応が十分とは言えないこと オ 図書館や科学館などが充実しているとは言えないこと
地域社会とのつながり（20代）	ア 隣近所との面識・交流が少ないこと イ その地域で過ごした年数が影響していること ウ 自治会・町内会活動（環境美化、防犯・防災活動など）への参加が少ないこと	ア 隣近所との面識・交流が少ないこと イ 地域の行事への参加（お祭り、スポーツ大会など）が少ないこと ウ 自治会・町内会活動（環境美化、防犯・防災活動など）への参加が少ないこと	ア その地域で過ごした年数が影響していること イ 隣近所との面識・交流が少ないこと ウ 自治会・町内会活動（環境美化、防犯・防災活動など）への参加が少ないこと
必要な収入や所得（分野）	ア 自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと イ 家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと ウ 自分の金融資産の額が十分とは言えないこと	ア 自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと イ 家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと ウ 自分の金融資産の額が十分とは言えないこと	ア 自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと イ 家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと ウ 自分の収入に比べて支出額が多いこと、あるいは十分な支出ができないこと